

# 本年度学校教育の努力点とその推進計画

自他を尊重し、認め合う児童の育成  
 - ことばの力を高め、自信をもって伝え合う活動を通して -

## (1) テーマ設定の理由

これまでの学校努力点では、あらゆる教育活動に話し合い活動を位置付け、児童が主体的に話し合い、考えを深めることができるようにしてきた。昨年度は特に、話し合いのスキルを高め、自信をもって伝え合う活動を通して、自他を尊重し、認め合うことができるように授業実践を行ってきた。

その結果、以下のような成果と課題が挙げられる。

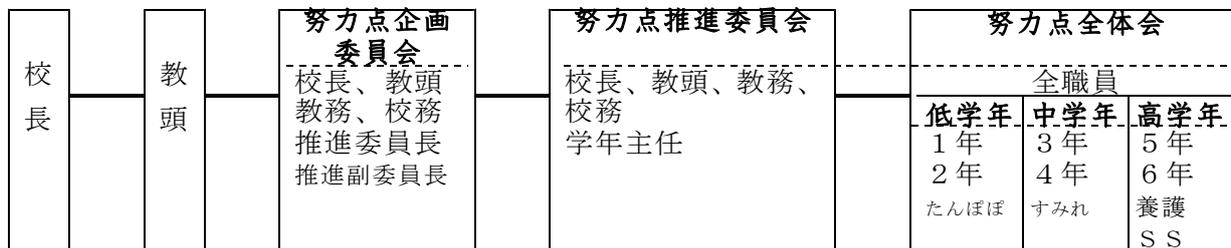
- 友達の考えのよさに気付くことができる児童が増えた。
- 友達の考えを認め、自分の考えに取り入れることができるようになってきている。
- 友達から認められることで、自分の考えに自信を深めることができた児童もいた。
- △ 自分の考えを整理して、適切なことばで表現することが難しい児童がいる。
- △ 考えを認められる経験が得られず、児童がいる。

そこで本年度は、児童の実態を生かして、自他を尊重し、認め合うことのできる児童の育成をめざす。これは、本校が特に大切にしている人権教育の視点からも意義深いものである。本校では、これまでも友達の考えをよく聞き、認めることができるように工夫して授業を行ってきた。本年度は、児童が自分の考えを自信をもって表現したり、友達から認められたりすることで自分の考えに自信をもてるようにする。こうした経験を繰り返すことで、自分に自信もち、他者を認める態度が育まれると考える。

<目指す児童の姿>

自他を尊重し、認め合う児童 ・ 自分の考えに自信をもつ児童 ・ 自分の考えを表現することができる児童 ・ 友達のよさを認めることができる児童 ・ 自分と違う考えを認めたり受け入れたりすることができる児童
---

## (2) 研究組織図



- 企画委員会
  - 推進委員会
  - 全体会
  - 低・中・高学年部会
- ・ 研究の方向性を決め、随時、進捗状況を把握し、研究を前進させる。
  - ・ 企画委員会の提案を受け、努力点の進め方について討議し、研究の進捗状況について情報交換する。
  - ・ 研究の方法についての共通理解を図る。
  - ・ 成果と課題点について発表し合い、情報交換をする。
  - ・ 努力点の手立てについて話し合い計画を作成する。
  - ・ 具体的な実践研究をする。
  - ・ 公開授業の事前・事後検討を行う。

## (3) 年間計画

月	実践の内容	月	実践の内容
4	7日 推進委員会（研究組織の編成・基本構想の確認）	10	努力点部会（後期実践について）
5	16日 部会（基本構想の確認・前期実践についての話し合い）	11	7日 努力点全体会（中間報告会）
7	4日 努力点事前検討会 ～11日 努力点授業事後検討会 11日 全体会 19日 推進委員会（中間報告と後期実践に向けての話し合い）	12	8日 推進委員会（実践経過の確認と最終報告について）
8	※教材のまとめ 実践を終えて	1	努力点部会（実践内容と最終報告会についての話し合い）
9	努力点部会（中間報告会についての話し合い）	2	2日 努力点全体会（最終報告会） 20日 企画委員会（次年度の企画）
		3	13日 推進委員会（次年度の企画）